

# G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

アダムスキー著「21世紀／生命の科学」（中央アート出版社）の“著者あとがき”には、次の一文があります。「特に、『生命の科学』講座の研究を目的として結成されたグループは宇宙の法則に従って行動し、・・・教育の目的を持って人間社会のあらゆる面に関心を持たなくてはなりません。」

本文は、アダムスキーが出したオリジナル原本には書かれていません。おそらく、各国で翻訳版を出す際に、アダムスキーによって追加で書かれたものではないかと思われます。

この下線を引いた部分は、アダムスキー哲学を学ぶ人には大変重要な部分となります。

アダムスキーの伝えた「生命の科学」を基本とする宇宙哲学を学んでゆくと、現実社会において、宇宙的に意味のないと思われるものが多数存在していることに気づきます。教育、文化、政治、経済など、人間社会のあらゆる側面で見られますが、精神活動においても名誉（声）、プライド、闘争心など、エゴを主体とする活動には興味がなくなるでしょう。

地球社会は、明らかにエゴを主体として様々なものが組み立てられています。通常、エゴという場合は、自己とか自我という以外に利己主義という意味があります。この後者、利己主義を主体にした社会となっているのです。

アダムスキーは、「21世紀／生命の科学」において、“エゴ”とその対極にある“宇宙の意識”という大きく2つのことを書いているようです。このため、その書物を理解できる人からすれば、現実の人間社会に魅力を感じなくなり、中には、精神的にあるいは物理的に世俗を離れて生活している人もいることでしょう。

しかし、アダムスキーは、「生命の科学」講座の研究と前置きしてから、教育の目的を持って人間社会のあらゆる面に関心を持つと言っているのです。

これは、人間生活における様々な側面、政治、文化、事件などを知り、観察し、その背景を思考することが必要であるということでしょう。そうすることで、人間活動の実態や原動力を知り、真の生き方を指向し、最終的には「宇宙の意識」の存在を自明のものとするでしょう。

## “言葉に注目”

### ＜人間にとって何より重要なのは記憶を発達させること・・・＞

by アダムスキー『UFOの真相』（中央アート出版社）

アダムスキーは、このようなことを何度か語っています。ここでは、地球人の記憶は非常に貧弱であって、「あなたがたはだれかが何かを言うのを聞くが、それを理解する前に忘れてしまう。あとで相手に聞かれても相手の言ったことが思い出せないことがある。」と語り、このように記憶力が弱いから、過去世のことが思い出せないというのです。

しかし、過去世のことを思い出せた場合、これは一種のテレパシー現象のようです。過去世のことを思い出すということは、過去世の記憶を読み取って、現世に引き出すことが出来るからだということです。つまり、アダムスキーがいう記憶とは、過去世の記憶を引き出せることで、現在の脳細胞にない記憶を、記憶の書から引き出す能力を意味していると言えそうです。

## 「生命の科学」学習のポイントPart26

今回は、レクチャー2 心とその成分の3回目“感覚器官の訓練法”という項目です。

まず、「視覚は意識の一結果であるのですが、もろもろの結果（現象）に自身をゆだねているその視覚なるものは、自分の見る現象の背後にある原因をめったに探求しようとしません。・・・各形態物が創造された目的を知ろうという願望・・・。そしてこれは、・・・意識という視覚をもって結果（現象）がながめられたときに心に洩らされます。」と書いています。

続いて、意識を教師に人間を子どもに例えて説明しています。そして、「意識から学ぶためには、心は素直な態度で・・・みずからを謙虚にしなければなりません。」ということです。

ここは、やや分かりにくいところですが、次のように説明できるでしょう。人間は、「創造の目的」を探求する必要がある。それは、肉眼の目で見ただけでは何も理解できないが、同時に自身の意識も見ているので、その意識から洩らされる小さな声、些細なことでも、教師からの声として、詮索することなく信じることで利益を得ることができるということです。

この後は、意識を謙虚に信じることの大切さを、自身の宇宙での体験から語っています。そして、宇宙人の教師に自身も子どもようになったことで、現在は、宇宙の王国に住んでいると語っています。「幼児のようにならなければ天国に入ることはできない」とのイエスの言葉は、このことを表しているようです。そして、「短気な人は挫折します」として、忍耐と信念の重要性を伝えているのです。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編26>

**“罪を憎んで人を憎まず”** 罪を犯した人であっても、罪を犯すに至るまでは、それなりの事情（理由）もあるということで、その罪は憎むべきものであっても、人そのものを憎んではならないという教えです。「盗人にも三分の理」ということわざにも通じますが、いかにも日本的な考え方ではないのでしょうか？ しかし、これはアダムスキーの伝えた、原因と結果の法則を肯定する考え方が背景にあると見ることも出来るでしょう。



Q：地球の地軸は本当に傾くの？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：「第2惑星からの地球訪問者」によれば、地軸の傾きが彼らの観測の理由の一つになっています。激しい傾きが起これば、地球に大変動をもたらすと、アダムスキーの問いにオーソンが肯定しています。但し、地軸が傾いても大変動が起きない可能性もあり、他人を自分自身の反映と考えればよいということです。果たして今の地球人に出来るかどうか・・・？

### 書物紹介

『私はなぜ「中国」を捨てたのか』 石平（せきへい）著 ワック株式会社

著者は、1962年四川省成都生まれの中国人です。しかし、2007年11月30日付で日本人に帰化しました。それは、共産党による思想教育、文化大革命、天安門事件を経て祖国に幻滅し、日本人となったことを綴った石氏の記録の書です。本書は、中国社会で生きた人間の赤裸々な体験だけではなく、日本の美、日本の素晴らしさを再発見できる書物となっています。文章も素晴らしく、やや偏った内容ではありますが名著といえると思います。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成23年3月5日（土）、5月8日（日）、7月9日（土）、9月17日（土）、11月12日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

### 【編集後記】

第26号をお届けいたします。最近、大変多忙で、頭が疲れるという経験を久しぶりにしました。しかし、読書はしていますよ！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第26号>

発行日 平成23年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

2011年3月11日14時46分。三陸沖を震源地とするマグニチュード9.0という未曾有の東日本大震災が発生しました。被災された方々には、お見舞いと哀悼の意を捧げます。

アダムスキーを信じ、「生命の科学」の実践にエネルギーを捧げてきた皆様は、この事態をどのように感じているのでしょうか？

我がもの顔で生きた人間の自然からの反乱、あるいは「新約聖書」黙示録の実現、または地軸の傾きの進行等々、色々な思いを持たれたことでしょうか。それらは、恐らく間違いではないと思われます。確かに、そのような時代に生きているのです。

実は、このような事態が来ることを、十数年前から確信していました。そして、このような災害は、日本だけにとどまらず、各国において、今後、更に起こる可能性があります。その結果は、食糧不足と内乱や戦乱の発生でしょう。

これだけの災難を受け、それでも助け合いや道徳性を失わない日本人の徳の高さは、世界中で大変な評価を受けています。日本の常識は、世界の非常識と言われ、日本人自身、それを卑下していたと思います。しかし、実は、おかしいのは他の国ではなかったか？ 日本人は、地球において、まれに見る徳の高い民族であると思います。それを、悲しいことに、被災によって世界中に証明したのだと思います。

第二次世界大戦の敗戦により、日本は、憲法、教育、文化、歴史等々に、外圧を受けることとなり、その結果、日本人であることに誇りを持たないような状況となりました。加えて、西欧文化の浸透とともに、価値観が変化し、貧富の差の増大や離婚の増加、犯罪も増え続けてきました。このような悪しき変化の中、今回の災害は発生しました。

その結果、エネルギー問題をはじめ、今までの生き方や政策への反省が聞こえてくるようになりました。今回の災害を機に、日本は、今一度一つになろうとしています。元々、天皇陛下を中心とした一大家族としての考え方を持つ日本人は、これから、新しい世界を目指して復興し、世界中の範として、更に宇宙的に生まれ変わることを切に願いたいと思います。

## “言葉に注目”

<できるだけ多くの人に奉仕しなさい。>

by アダムスキー『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

この言葉は、「積極的及び消極的考え方と動機」と題する中で語られています。ここでは、積極的態度も消極的な態度と同じく善くないものとして、積極と消極の二つの力を用いた中庸の姿勢を肯定しています。この中庸をもって、正しい動機を導き出すというのです。

そして、アダムスキーの助言として、「できるだけ多くの人に奉仕しなさい。」と言うのです。彼によれば、他人への奉仕、助けようという動機は、動機が促進される経路を自動的に高め改良するということです。但し、見返りを求めることなく、自己を忘れて、そのことに没頭する必要があります。これが実現できれば、結果として相手方は助けられ、助けた側も、そのことから、より多くの学びを得ることができるということです。



## 「生命の科学」学習のポイントPart27

今回は、レクチャー2 心とその成分の4回目“人間の能力はすべて平等”という項目です。

ここでアダムスキーは、大ビルディングの建設を例としてあげます。「まず完成した建築物が意識によって人間の心のスクリーン上に描かれます。そしてひとたび心はその絵を見るならば、・・・青写真が作られます。」とあります。ここは、単なる説明文として読んでしまいがちですが、大変に重要な部分が隠されています。

人が、何かを作ろうとする場合、その意志を持つことで、宇宙の意識はその映像を人の心のスクリーンに描くと解釈できます。そして、その映像を心が見ることが出来るならば、青写真が描けるというのです。このような解釈は、「生命の科学」を理解するのに大変重要なのです。

さらに、本項で重要となるのは、“平等”という言葉の意味です。そのことを教えるために次のように書いています。「彼が雇う最初の職人たちはいわば最低の技能者です。・・・なぜなら彼らは・・・ミソ掘り人夫であるからです。」この最低という部分は、“一般的に言われるところの”という言葉の前に付ける必要があるでしょう。地球的に見れば、一部の人間しかできない希少性が高い業務は優れていて、誰でも出来る業務は希少性が低く最低と考えられます。この解釈は、経済的な視点が強く、物と同じように人も考えているということです。

しかし、このミソ掘り人夫がいなければ、建設は完成せず、最後に描かれる予定の優れた芸術作品も完成できない。つまり、このことから“平等”とは何かを考える必要があるのです。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編27>

**“和して同ぜず”** 人とは争わず協調するけれども、自分の意見をしっかり持っていて、人の意見に簡単に引きずられたり、妥協することがないという意味です。これは、協調性が重要であると認めながら、安易に他人の意見に妥協してはならないという戒めです。元々は、「論語」の言葉ですが、こんな時だからこそ、“宇宙の意識”を自らの指針とする私たちには、大変重要なことなのではないでしょうか。



Q：最近のUFO目撃報告は？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：去る、4月5日（火）を皮切りに、複数回UFOが出現し、写真撮影に成功するという事件が発生しました。これは、筆者の近くで起こったものであり、少なくとも5日、7日の出現は、赤、青、緑などの光跡から見てUFOであると思われます。出現の理由については、東日本大震災と何らかの関係があると考えています。

### 書物紹介

『告白』 アウレリウス・アウグスティヌス 著 岩波文庫

著者は、キリスト教最大の教父と呼ばれる聖アウグスティヌスです。司教として偉大であった彼は、信者から彼の過去と現在を知りたいと頼まれ書いたと言われています。若い頃のアウグスティヌスは、早くに子供をもうけるなど放縦な生活を送り、マニ教に心酔していましたが、32歳の時、悩んでいると“取って読め”との子どもの声で聖書を開き、目に飛び込んだ言葉で覚醒し、キリスト教徒に改心したというものです。本書も、若い頃に影響を受けた1冊です。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成23年5月14日（土）、7月9日（土）、9月17日（土）、11月12日（土）、1月21日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

### 【編集後記】

「雨降って地固まる」。今回の災害を機に、不屈の精神のもと、日本を復興させたいものです。デマに惑わされず、真の道を見つめながら・・・

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第27号>

発行日 平成23年5月10日  
編集発行 国際アダムスキー普及会  
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1  
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

地球外知的生命体探査（SETI）は、「3つの巨大な宇宙船が地球に向かって移動している。」と発表しました。これは、昨年12月22日、ロシアのメディア“プラウダ”が発表したというものです。

SETIによれば、「物体は、冥王星軌道の向こう側にあり、まもなく火星軌道に到達する。」とされ、巨大なもので直径240kmあり、他の2つはこれより小さいということです。そして、「宇宙船は、2012年12月に地球に到着する可能性が高い。」ということで、マヤ暦の地球終末の話に合わせているのではないかと、そもそも、宇宙船とどうして断定できるのかなど、多くの憶測が流れています。

かつて、NASAの科学者ノーマン・バーグラン博士は、1980年にボイジャー1号、2号の映像から、土星のリングの中に長さが1～5万kmもの巨大な葉巻型UFOが3機存在すると発表しました。これは、地球の直径約1万2千700kmを超える巨大なもので、1995年にハッブル宇宙望遠鏡でも確認されたというものです。

これらの情報を、単に偽りと解釈することもできますが、こうした宇宙の壮大な事象が、実際には、たくさん報告されているのではないかと考えられます。

実は、前段のUFOについては、個人的に得ている情報と符合するものであり、マヤ暦の終末と合わることで、軽い印象を与えるものの事実ではないかと考えています。

いよいよ、様々なことが展開する時代となりました。そもそも、地球人は、彼ら、スペースピープルにより、地球に連れて来られた兄弟であり、以来、彼らの監視下にあったのです。これは、アダムスキーが伝えたことであり、旧約聖書等により読み取ることができます。

今後は、命がけで地球を導いたアダムスキーが、真実の人であったことが多くの地球の人々に明らかになるでしょう。そして、新約聖書の黙示録的な事態が到来するかもしれません。

アダムスキーを認める「生命の科学」の学徒であるならば、恐れることなく、しかし、油断することなく、己の使命を遂行しつつ賢明に時の推移を見守りたいと思います。

## “言葉に注目”

### < 宇宙的に生きるための原則 >

by アダムスキー 『UFOの謎』（中央アート出版社）

この言葉に意味があるわけではありません。アダムスキーは、本書の中で宇宙の隣人たちが生きるための原則を持っていると書いています。それは、次のようなものです。

- (1) 日常の健康と慰安にとって実際に必要な物だけを望むこと。
- (2) 偏愛することなく 万人を平等と見なすこと。
- (3) 自分の想念を観察しコントロールして、それをいつも宇宙的な状態に保っていること。
- (4) 万物が奉仕し合っていることにたいして感謝をすること。

これは、子どもの生活を基礎づけるための土台ということです。地球人にとっても、大切な事柄ですが、特に(3)は、地球人に最も欠けていることではないでしょうか。

## 「生命の科学」学習のポイントPart28

今回は、レクチャー2 心とその成分の5回目“万人はすべて重要な存在”という項目です。この導入は、前項の内容を引き継ぎながら、万人が重要な存在であることを“ソロモン王”の神殿完成の例により説明します。

「・・・その工事で最も功勞のあった者を儀式で表彰し、玉座の臨席にすわらせると表明しました。」そこで、各種の技術者全員が晴着を着て出席し、自分の名が呼ばれることを期待しています。そこに、1人の鍛冶工が仕事着のまま進み出て、王の隣席に座ったというものです。

当然、動揺が起き、なぜ王の隣に座ったのか問いただします。すると鍛冶工は、「あなたがたのコテやコンパスはだれが作ったのか？」と語り、「それは君だ」と皆は答えます。さらに、「そんな道具がなくてあなたがたはこの神殿を作ることができたでしょうか？」と質問すると、皆は「ノウ」と答え、「だったら名誉は私のものだ」という流れです。この平等さは、金星や土星で実践されているということです。そして、「・・・神の目的の遂行にたいして個人の能力のよりすぐれた表現の特性を求める気持ち欲求を持っています。」と書いています。

この表現から「平等」とは、各人の役割は異なっている、それぞれ同じ重さであるということです。この役割の違いは、個人の能力（特性）の違いであり、それ自体に注目するのではないとのことで、この理解には、その背後に、宇宙の意識に対する全幅の信頼が必要なのです。ここがポイントです。こうして、“万人はすべて重要な存在”であることを伝えていきます。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編28>

**“家庭は道徳上の学校なり”** この言葉は、18、19世紀にスイスで活躍した教育者のペスタロッチのものです。その教育理念の根本は、「生活が統治する」と言われるように、実生活における体験が、子どもの才能や性格を作り上げているという考え方です。教育とは徳育であり知育である。特に家庭は、徳育の場としての意味が大きいというものです。学校に“子どもを捨てに来る”という親が多い中、家庭での平安と道徳が切に求められています。



Q：異星人は、なぜ公然と現れない？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これは良く聞かれる質問です。近隣の惑星人は、自分の同胞である惑星人を地球へ連れてきた人々です。これは、宇宙的な理由があるにせよ、関係者は、そのことで地球へのカルマ（因果）を持っています。それ以来、支援という形によって地球に関係しています。しかし、それ以上に、新たなカルマを作ることは双方にとって好ましくないのだと考えられます。

### 書物紹介

『宇宙人はなぜ地球に来たのか』 荑澤 潤一郎 著 (株)たま出版

著者は、アダムスキー支持者として知られる荑澤さんです。アダムスキーも同様なタイトルの論文を残しています。前半は、ハリー古山氏との接触による宇宙文明の秘話が書かれています。特に、アダムスキーに関連するエピソードは、新奇を含めて良くまとめられています。

また、火星による妨害について多くのページが割かれています。これはどうも事実であり、アダムスキーと接触した火星人は、一部のエリートであると考えた方が妥当だと思います。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成23年7月9日（土）、9月17日（土）、11月12日（土）。24年1月21日（土）、3月10日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

### 【編集後記】

余震が続く中、気象も従来のもとは大きく変わりつつあります。しかし、天空に輝く星々を見つめつつ、心穏やかに生きたいものです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第28号>

発行日 平成23年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）



# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

地球における経済活動の動機は何なのでしょう？ 資本主義経済の基本原理は、労働者を雇い入れ、生産・流通・消費（販売）を経済行為として、利潤の追求を原動力とするというものです。これを継続することが、経済発展や社会発展につながるという考え方です。

つまり、利益を得たいという欲が、人間の経済行為の原動力となっているのです。

人の生活を見れば、利益を得ることで、衣・食・住という生きるために必要な基本的条件をはじめ、車や電化製品など様々な商品を手に入れることができます。

経済活動の原動力となる欲は、そのほとんどがエゴから発しているために、その望みは、エゴを満足させるものであり、従って、お金があれば、望みは叶えられるということになります。人間の欲求は、お金があれば大方は叶えられるという陳腐なものということもできます。

社会学者のマックス・ヴェーバーは、「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」という名著の中で、欲を動機とする資本主義社会について、プロテスタントの禁欲的労働（＝倫理観）があって、はじめて社会に貢献できるという趣旨のことを書いています。

昨今の世界を取り巻く経済は、新自由主義などをはじめ、あまりにも行きすぎたものであり、倫理観などとっくに捨て去っているのではないかと思います。

そんな中で日本は、欧米や近隣諸国と比べ、倫理観を持って進めてきた経営者が多いと思われれますが、如何せん、世界の多数の国が、経営者側の利潤追求に没頭しているため、同じ土俵で戦うという苦しい状況が続いているようです。少なくとも私には、そのように映ります。

強いものが弱いものを食するという資本主義経済は、自然界から学んだと言われますが、決してそんなことはありません。人類を一つの種と捉え、仮にライオンを一つの種と捉えれば、ライオン同士で戦い、食するという事は決してないからです。

様々な偽りと不公平を内包する資本主義経済は、大国を中心にほころびが見えつつあり、早晚成り立たなくなると思われます。これを運営する人間の精神こそ見直す必要がありますが、経済の仕組みそのものについても、抜本的な見直しが望まれるのだと思います。

## “言葉に注目”

< 他の惑星(複数)ではこの振動の法則が教育システムの基本的な考えになっています >

by アダムスキー 『第2惑星からの地球訪問者』(中央アート出版社)

この言葉は、アダムスキーが金星の母船に乗船した時に出てくるものです。ファーコンが、家庭用ラジオほどの大きさで、テレビのスクリーンがついている装置を見せ、これによって地球上の言葉を録音し、映像に変換するのだと教えられます。

さらに、「あらゆる言葉は音楽の音階に似ている。この法則を知ることによって、これまで未知であった言語を短時間で学ぶことができる・・・」等々と語り、これを補足するようにイルムスが語ったのが上記の言葉です。

地球上においても、当時に比べ振動の法則について様々な研究が行われています。もしかすると、このレベルに近づいたかも知れませんが、今なお多くの真理を含んだ言葉だと思います。

## 「生命の科学」学習のポイントPart29

今回は、レクチャー2 心とその成分の6回目“心は本当の知る者ではない”という項目です。

初めに、「心こそは人間であり、知る者であると教えられてきました。」とあります。確かに、そのように理解してきたでしょう。しかし、アダムスキーは、「心は一つの結果（現象）ですから、この教えは真理どころではありません。むしろ人間の内奥に“知る者”が宿っているのです。」と教えています。まず、ここがポイントとなります。

次に、近年の新しい発明、エレクトロニクスの分野での進歩は奇跡であるとたたえます。そして、心がいかに物事を知らないかという説明に入ります。「しかし現在の人間の持つ知識のすべてをもってしても、人体を製作して生ける人間と同様の機能を持たせることのできる人はこの世に一人もいません。」と、誰もが理解しやすいように書いています。

これに対して、人体の内部には、人間を作りあげる知識が内蔵されているので、子どもを生み出すことができるという説明されています。そして、このことは、宇宙の意識を感じて生きる他の動物でも同じであると書いています。この辺の解説は、大変理解しやすいところですが、一般の地球人には、考え及ばないところだと思います。こういった考え方、ものの見方が、「生命の科学」を理解する上で重要なところとなるのです。

後段で、心は学ぶために自らを謙虚にするならば、人体から学べると語り、「自分自身を知れ。そうすればすべてがわかるだろう」という言葉が、それを表しているのだと教えています。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編29>

**“己の欲せざる所は人に施す勿れ”** この言葉は、古代中国の孔子のもので、「ただ一言で終身の戒めとなる言葉はないか？」と弟子の子貢（しこう）から聞かれ、それは、恕（じょ）であると孔子は答え、さらに説明したのがこの言葉だと言われています。これは、キリストも同様なことを語っています。自分が嫌だと思ふことは、他人に対して行ってはいけないということで、言い換えると思いやりと解釈できます。いつになっても、これは大切なことでしょう。



Q：なぜ、人間は過失を犯すのでしょうか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：“過失”という言葉の意味も大切なところ。単に、地球上の法制度違反という意味ではなく、本来の生き方に対して異なる方向への行為と考えられます。人間は、成長の過程にありますので、慣れないことについては、多かれ少なかれ誰もが過失を行うものです。アダムスキーも言うとおり、大切なのは、それに気づいてすぐに修正することだと思われれます。

### 書物紹介

『ドレの失樂園』 ジョン・ミルトン 著 (株)宝島社

「失樂園」は、ダンテの「神曲」と並ぶ古典として知られるもので、本書は、そこに天才・ギュスターヴ・ドレの絵画を挿画として合体させたものです。

光り輝く神と呼ばれ、創造神に勝るとも劣らぬ権勢を誇る美貌神ルチフェルが、神が新たな星を創造する際の守護神に選ばれなかったことから神と対立し、宇宙を二分する戦いを起こすこと。そして、その後の生き方など、この星を地球と捉えると大変に興味の持てる叙事詩です。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成23年9月17日（土）、11月12日（土）。24年1月21日（土）、3月10日（土）、5月12日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

### 【編集後記】

放射能汚染、復興の遅れ、台風被害、政治不安、円高等々の暗い話題が多い中、宇宙の意識を感じつつ共に歩いていきましょう！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第29号>

発行日 平成23年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）



# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会談者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

冊子「毎日フォーラム」10月号に『物質文明から生命文明に転換すべきだ』というタイトルの記事が掲載されました。これは、国際日本文化研究センター教授 安田喜憲氏が、記者の質問に答えたものです。

この主旨は、「近代ヨーロッパが生んだ物理学は、文字通り、物の理を追求する学問で近代文明のシンボルだった。そのおかげで私たちは豊かな生活を満喫できた。しかし、それが行き着いた先は、現代の金融資本主義と市場原理主義で、お金中心の社会だ。物理学が核兵器を生んだことに象徴されるように、本質的に生命を軽視し過去の歴史に学ぶ視点を見失いやすい文明原理をはらんでいた時代ではないかと思う。今回の大地震を予知できなかったのも、私はこうした物理学主導の学問の原理に深くかかわっているのではないかと思っている。」というものです。近年、このような視点から研究する学者が増えているようです。

現代の経済システムや社会システムの多くは、西洋文明における考え方を中心に進められてきました。その背後で支えた科学力は、西洋文明の象徴で、確かに豊かな社会を築いてきたでしょう。しかし、この思想の根本的なところは、フランスの哲学者であるルネ・デカルトが、科学の研究から精神的なことを排除し、物理だけで進める考え方（二元論）を主張したところにあります。これは、上に立つ人々に都合が良いことから世界中に広がりしました。

現代では、精神的な部分は、心理学や精神分析学などの学問や研究は進められていますが、まだまだ、物質と精神との距離は遠く、別々のものとして研究されていることが大半です。ここに、現代文明の未熟さがあるのだと思います。

安田教授は、「過去の英知を未来に生かすことと、生命への深い思い。この2つがこれからの時代を切り開くキーワードだ。」とも語っています。西洋は、肉体と心を完全に区別するような二元論が中心であり、東洋では、一元論的な考え方が強く残っています。アダムスキーの「生命の科学」は、「生命への深い思い」が無ければ理解できないものであり、東洋的な一元論に近く、今後、時代とともに、ますます重要度を増していくものと思います。

## “言葉に注目”

### < 地球人は大宇宙船を建造すること >

by アダムスキー 『金星・土星探訪記』(中央アート出版社)

これは、アダムスキーが土星旅行について記した部分の見出しとして編者が付けたものです。

土星の会議には、各惑星から1名の代表者12名と議長合わせて13名が出席し、アダムスキーはその1人としてテーブルに座りました。

そこの最初の話題が、この太陽系と地球に関する問題で、太陽の磁極の逆転は全惑星にどのような影響を与えるのか？ もし太陽系崩壊の場合は、地球人自らが宇宙船を建造することの重要性が強調されたようです。太陽系の崩壊は、どうも確実であるということで、アダムスキーは、最後の講演でも地球人が宇宙船を開発することの重要性を強調しています。SPが、アダムスキーとコンタクとした理由の一つは、ここにあるのだということでしょう。

## 「生命の科学」学習のポイントPart30

今回は、レクチャー2 心とその成分の7回目“人体の創造の不思議”という項目です。

冒頭「妊娠している女は自分の体内に受胎の状況が起こっていることを知っていますが、彼女の心は人体の創造について何が行われるかを知っていません。」と書いています。

ここが、本項の中心となる部分です。妊娠については、医師に聞かなくても知ることは出来るでしょう。しかし、自己の身体の中で、どのように新たな人体の創造がなされているか知っていないというのです。この事実を、まずは認識する必要があります。

そして、「胎児を生長させているようなタイプの英知を正確に知っている心というものはこの世に存在しません。」と語ります。

この英知は、写真には撮られたことはないものの刻々と、新たな人体を創造しているということです。つまり、写真として見る事が出来ないことから、人間には、理解出来ないかも知れないが、確かに、人知を超えた何者かが、新たな人体を創造しているということは事実であると言いたいのです。

そして、「このことは心が自分よりももっと偉大な英知に従属していることを証明しています。」として、心は、その事実を認識するとともに、それに身を委ねることで英知とひとくなる可能性があるかと結びます。本項は、人知を超えた英知の存在について、妊婦を例により具体的に説明する前段となるものです。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編30>

**“仕事はそれに使える時間があるだけ膨張する”** この言葉は、イギリスの哲学者・パーキンソンが発見した法則です。これによれば、時間に余裕のある仕事は、その分時間を膨張して行い、時間がなければ短く実行するという事です。つまり、短い時間でも実行できることを、時間があるとただらだらとしてしまうという意味です。ここから、暇な人間ほど中身の薄い仕事をしがちなので、時間を区切って最大限の効果を上げる工夫が必要だということです。



Q：宇宙の意識と一体とはどのような状態？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：宇宙の意識と一体というと、何か特別に体に変化が起こると考える人がいます。確かに、変化はありますが、それは一度に来るものではなく徐々に来ようです。これは、日常生活で誰でも起こっていることですが、それが継続しないので分からないだけです。「生命の科学」を理解し、日常生活を営んでいると一体という意味が分かるようになるでしょう。

### 書物紹介

『日本をここまで壊したのはだれか』 西尾 幹二 著 草思社

著者は、電気通信大学の名誉教授で、ドイツ文学を専門とする文学博士です。文章はやや硬いものの、博識で鋭い視点から国際問題や内政問題などが書かれています。1936年当時、イギリス、ソ連、フランス、アメリカの4カ国で地球表面の58.7%が支配され、その中には、アジアの大部分が含まれていました。「侵略国家」とは欧米ではないか……。そんな中で大戦が起こるわけです。かなり右よりの印象がありますが、今の日本には必要な視点だと思います。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成23年11月12日(土)。24年1月21日(土)、3月10日(土)、5月12日(土)、7月8日(日)。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館(浅草寺社殿の道路東側)8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

### 【編集後記】

今回は、いつもに輪をかけ、執筆の時間が厳しいものでした。しかし、“意志のあるところには方法がある”ものですね！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第30号>

発行日 平成23年11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)